小・中学校再編にかかる地区意見交換会（宇目会場）

１ 日時　　令和８年１０月５日（月）　１９時～２０時１５分

２ 場所　　宇目地域コミュニティセンター

３ 参加者　　２０人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	最後のスケジュール案を見ますと、令和８年度に「方針決定」と書かれております。これは、今年度中（令和８年度中）に案の方向性を決定してしまうという認識でよろしいでしょうか。
事務局	当初のスケジュール案では、今年度中に検討協議会から諮問に対する案をいただく予定としておりました。しかし現在、各地区で説明会を開催し皆様のご意見を伺っておりますので、いただいたご意見を踏まえて再度検討協議会に諮ることとなります。多くの課題や解決すべき点が出ておりますので、今年度中にスケジュールどおり終わるかについては未定の部分もあり、期間が延びる可能性もございます。
参加者	質問が３点ございます。 ①宇目緑豊小中学校は今回の再編案の対象外とのことですが、現在、宇目の給食は直川から配送されています。直川が統合された場合、宇目の給食はどうなるのでしょうか。 ②本匠小中学校は小規模特認校として残すとのことですが、現在、校区外から本匠小・本匠中にそれぞれ何名が在籍しているのでしょうか。 ③再編により小学校 11 校、中学校６校が姿を消すことになります。教職員の給料は国や県が負担しますが、支援員や学校主事、施設の光熱水費や修繕費・営繕費など、市からの持ち出し経費はこの統合案が実現した場合、財政的にどれくらい余裕ができてくる見込みでしょうか。
事務局	①給食についてですが、仮に直川が統合となった場合、宇目の給食を直川から配送するのか、あるいは弥生等から配送するのかといった具体的な点については、まだ協議・決定に至っておりません。 ②本匠小・中学校への校区外通学児童生徒数ですが、現在、小学校が 13

	人、中学校が７人となっております。 ③財政的な効果についてですが、試算に変動はございますが、統合により５年間でおよそ２億円程度の市費負担が削減されるのではないかという大まかな見込みを持っております。
参加者	宇目緑豊小・中学校は通学に１時間以上かかる地域があるため再編の対象外と説明されていますが、どの地域から通うと１時間以上かかると想定されているのでしょうか。また、将来的にその地域に児童・生徒がいなくなるなどして１時間以上という条件が解消された場合、弥生など他の学校との統合案が再び浮上してくるのでしょうか。
事務局	通学時間の想定につきましては、宇目の場合は柳瀬や木浦方面などを想定しております。最短ルートでもバスの乗り降りがなければ 50 分程度、途中の乗降等を含めると１時間以上を要すると試算しております。また、将来的にその地域から児童・生徒がいなくなるなどして通学時間が１時間以内となった場合にどうするかについては、現時点では対象外の解除時期など詳細な検討までは及んでおりません。
参加者	もし同級生が４人程度しかいない状況で、そのうち２人の児童・保護者が「弥生に通わせたい」と希望した場合、校区外就学は認められるのでしょうか。また、認められた場合、通学費用や交通手段の支援はしていただけるのでしょうか。それとも、宇目の子どもは宇目緑豊小・中学校以外は選択できないのでしょうか。
事務局	宇目から弥生などの他校に通う場合は「校区外就学」の扱いとなります。教育委員会が定めている校区外就学の要件を満たせば通学は可能ですが、その場合の通学手段や費用は保護者の責任と負担でお願いすることになっております。要件を満たさない場合は個別に教育委員会で協議・判断することとなり、ハードルが高くなります。
参加者	本日の再編計画案やアンケート結果の資料は、今日の会議以外でもホームページ等で公表されたり、配布されたりしているのでしょうか。

事務局	アンケート結果につきましては、４月中旬より市のホームページ上で公開しております。また、本日配布している資料もホームページの意見交換会日程のページに掲載しております。さらに、各振興局やコミュニティセンターにも本日の資料とご意見箱を設置しておりますので、本日参加できなかった方々にもご覧いただき、ご意見を提出していただけるようになっております。
参加者	小学校開校時の推計児童数が 19 人となっておりますが、この人数を見て市内中心部等への転居を考えるご家庭も出てくるのではないかと思います。もし児童数が推計を大幅に下回った場合でも、宇目緑豊小中学校として存続するのでしょうか。
事務局	現行の案におきましては、児童数が推計をさらに下回った場合についての具体的な対応までは定めておらず、現状では人数が下回ったとしても再編の対象外として存続する方針です。ただし、今後数年間の状況推移や地域・保護者からの協議要望等があれば、その時点で柔軟に対応・協議していく必要があると考えております。
参加者	宇目緑豊小・中学校が再編対象外とされた理由は、市の財政的な都合ではなく、通学に１時間以上かかることによる子どもの負担に配慮した結果であるという認識でよろしいでしょうか。
事務局	お見込みのとおりです。通学時間１時間という基準は、文部科学省の手引でも指標として示されており、子どもの体力面などを考慮したものです。１時間を超える長時間の通学は子どもへの負担が過大であると判断し、今回対象外として線を引いております。
参加者	再編によって予算や人員が再配置されるとのことですが、今後子どもが減っていく中で、宇目の子どもたちの教育力や学力を伸ばすための具体的な施策や佐伯市ならではの魅力的な教育ブランディングはあるのでしょうか。提示されたメリット・デメリットは教育委員会側の視点が多く、保護者からすると必ずしも実感できるものではありません。子どもたちがのびのびと成長し、将来地元に戻ってこられるような未来志向の教育プランがあれば、ぜひ早い段階でお示しいただきたいです。
事務局	学校規模に関わらず、佐伯市として目指しているのは「自分の考えを持ち、自分の言葉で表現できる子ども」「自他を大切にし、力を合わせて活動する

	子ども」の育成です。この指導方針のもと、宇目緑豊小・中学校でも小中一貫教育を生かした教員の相互乗り入れ授業や、地域と共にある学校づくり（コミュニティ・スクール）を展開しており、これらを全市的に行っています。また、コロナ禍以降課題となっている子どもたちの自己肯定感の向上を図り、宇目緑豊小・中学校の重点目標である「自分の思いや考えを伝え合う子」の実現に向けて、今後とも子どもたちの教育環境と学力向上に全力で取り組んでまいります。
参加者	学校が統合された場合、現在ある放課後児童クラブはどうなるのでしょうか。直川小学校などが統合された場合、地元の児童クラブも閉鎖されて弥生などの統合先まで通うことになるのか教えていただきたいです。
事務局	放課後児童クラブにつきましては、学校が統合されたからといって直ちに地元の児童クラブを閉鎖するとは考えておりません。基本的には、統合後も現在の児童クラブまでスクールバス等で送迎する方向で検討しております。ただし、実際の利用人数や「統合先の児童クラブを利用したい」という保護者のご希望などにより児童が分散する可能性もございますので、今後の状況やニーズを踏まえ、担当部署であるこども福祉課と協議を重ねてまいります。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	**発言内容**
参加者	学校がなくなると地域の過疎化にますます拍車がかかり、地域コミュニティの維持も難しくなるのではないかと強く懸念しております。これまで説明会を開催してきた上浦、鶴見、米水津、直川などの地域では、住民からどのような意見が出されていたのかお聞かせいただきたいです。
事務局	他地域の意見交換会におきましても、「学校がなくなると地域が非常に寂しくなる」「過疎化が進むのではないか」といった不安や懸念の声が多く出されております。一方で、「子どもたちの集団教育や学習環境を考えると、将来的な再編はやむを得ないのではないか」というご意見もいただいておりま

	す。教育委員会としては、まずは地域や保護者の皆様のご意見を直接伺うことを最優先に進めており、いただいたすべてのご意見を持ち帰り、検討協議会等でしっかりと共有・議論してまいります。
参加者	今回の再編計画の話を家族に話したところ、「宇目は置いてけぼりになったね」と言われました。統合の是非については様々な葛藤がありますが、児童・生徒数がこれだけ減少してくると、全体としての再編はやむを得ない部分も多分にあると考えております。ただ、その流れの中で、宇目だけが「対象外」と切り離されてしまうことには非常に寂しさを感じます。そうなると、「では次の手をどうするのか」をぜひ考えていただきたいです。 統合により適正規模で切磋琢磨し、教育効果が上がるというメリットがある一方で、地域から学校がなくなるということは、その地域に若い人たちが住もうという魅力が失われ、過疎化に拍車がかかってしまいます。宇目の学校がこうして残るのであれば、児童・生徒を１人でも２人でも増やす策を、地域全体で真剣に考えなければならないと思っております。 そこで個人的な提案ですが、２点あります。 １点目に、現在、本匠小・中学校が小規模特認校として校区外から多くの児童・生徒を受け入れているのであれば、小規模特認校の機能を宇目緑豊小・中学校に移設・指定することはできないでしょうか。 ２点目に、教育行政に限った話ではありませんが、宇目地域では現在、森林組合が非常に活発に事業を展開しており、従業員だけで約 100 名おります。佐伯全域から多くの人が通っており、山で働く人、運送する人、チップを加工する人など、家族を含めて地域に相当な経済効果をもたらしています。そして今、若い世代が林業の現場で働き、結婚し、家を建てて子育てをするという動きが少しずつ芽生えてきております。 これは宇目に限らず鶴見や米水津なども同様ですが、それぞれの地域にいかに若い人たちを定住させ、生業を成り立たせるかという施策を、町村合併をした以上は市内中心部だけでなく市全域に目を広げ、各地域の特性に合わせて市行政全体で講じていただきたいです。今回対象外となった宇目において、若い人たちが住める条件や定住支援を少しでも行政として後押ししていただけるならば、推計にあるような 19 名に落ち込まず、児童数を何とか維持できる道もあるのではないかと、地域の一人として強く思っております。
参加者	再編全体についてですが、アンケートで「やむを得ない」と答えた方々は賛成しているわけではなく、納得できない部分がありながらも、やむを得ないと考えて回答された方も多いのではないかと思います。１クラス 20 人以上

	を適正規模としていますが、必ずしもそれが正解とは限らないのではないでしょうか。例えば、佐伯市独自に「１クラス 20 人（または 25 人）以下」を基準とし、35 人学級であれば少人数の２クラスに分けるといった特色ある少人数教育を打ち出してもよいと思います。教員の多忙化が問題視される中、少人数教育は教員の負担軽減にもつながり、子どもにとってもきめ細やかな指導という大きなメリットになります。国の方針に沿うだけでなく、佐伯市として子どもたちにとって何が最善かを考えた独自の教育環境を提示していただきたいです。次に宇目地域についてですが、校区外通学の要件を柔軟に見直すことはできないでしょうか。直川や他地域から宇目への受け入れも考えられますし、本匠だけでなく宇目も小規模特認校として全国から受け入れる形も考えられます。また、幼稚園・小学校・中学校が同一敷地にある利点を生かし、幼小中を一つのスペースに集約して空いた校舎に児童クラブを移設するなど、20～30 年先を見据えた複合的な校舎利活用や地域内再編の選択肢も今のうちから検討し、提示していただきたいです。
参加者	宇目や蒲江は遠距離だから「対象外」と説明されていますが、市全体でこれだけ大規模な再編を行う以上、再編計画の報告書の中に「遠隔地の小規模校のあり方」についての将来的な方向性が示されていないと、客観的に見て宇目や蒲江が置き去りにされたような印象を受けます。
参加者	宇目は残るとしても、統合される直川などから学校がなくなることで、地域全体の過疎化が進み、高齢者が寂しくなったり振興局の活動が縮小したりと、地域コミュニティが衰退してしまうことが大変心配です。空き家の増加など地域全体の課題にも直結しますので、教育委員会の中だけで完結させるのではなく、市の関係各課や行政全体、さらには国とも連携し、地域コミュニティの維持や活性化について総合的に対策を講じていただきたいです。
参加者	今後、宇目の児童・生徒数が減少していった場合、「何名まで減ったら統合を検討する」といった基準や要綱をあらかじめ検討しておく必要があるのではないでしょうか。ただし、遠隔地ゆえに人数だけで線引きするのが難しい面もあると思いますので、最後の１人まで存続させるのかどうかも含め、将来のあり方について丁寧に検討していただきたいです。また、スケジュール案では令和８年度中に方針決定とされていますが、これだけ重要な問題ですので、予定ありきで急ぐのではなく、各地域からの意見をじっくり聞いた上で、もう少し時間をかけて議論を尽くしてから進めていただきたいです。